

スポーツツーリズムの取組の現状報告 (H29の取組についての進捗・最近の取組についての共有事項)

H29年度取組

- 様々なツーリズム関連の取組をグローバルに展開しているが、その最重要テーマとしてスポーツを挙げている。
- 高齢化社会、健康寿命の延伸等の観点から、スポーツ版のヘルスケアも成長戦略テーマの一つとしている。
- 「する」、「観る」スポーツツーリズムのツアー造成だけでなく、新規事業としてスポーツホスピタリティ事業を展開している。
- 自社スポーツエントリーサイトを通じて、国内外への情報発信やエントリー促進を図っている。自社のスポーツイベント開催の際にも、国内のみならず、海外の参加者の誘客も図っている。
- パラスポーツ体験を企業イベントに提供する「あすチャレ運動会」の取組を、日本財団と連携して進めている。



現状

- ジャパンタイムズ社と協業しラグビーワールドカップ2019™日本大会における交流人口の増加を取組中。
- JTBヘルスケアの事業ブランドを立ち上げスポーツ×健康のヘルスツーリズムプログラムを地域とともに開発している。
- ラグビーワールドカップ2019™日本大会におけるスポーツホスピタリティ商品の販売
- 今年度も昨年から引き続き、自社サイトを通じ、国内外への情報発信やエントリー促進を図り、昨年より半期で大幅に会員が増加。参加者へのPRはメルマガ・FB・EXPOを活用している。※詳細は次頁参照
- 弊社取扱修学旅行（中学生）行程内において体験プログラムを実施。今後も法人（学校法人含む）を中心に取組を強化。

※1ページに収まらない場合は本ページにも記載ください。

【JTBスポーツステーション】

1. 昨年との比較

- ・外国人会員数：2017年度まで約30,000名の会員数、2018年度4～9月の半年で 約7,100名の会員増加(計37,100名)
- ・スポーツ参加人数：2017年度9,185名に対し、2018年度10,000名を超えつつある(9.25現在9,228名の申込と既に前年超え)
- ・多言語エントリー大会数：2017年度40大会、2018年度48大会と既に前年超え
- ・大都市大会から地方大会にも広がりつつある。
わっかない平和マラソン 52名、網走オホーツクマラソン 104名、富山マラソン 126名、高野山・龍神温泉ウルトラマラソン 28名
マラソンだけでなく 自転車やウルトラマラソンの分野にも広がりつつある

2. プロモーション

- ・従来はJSS会員へのメルマガが中心であったが、2017年度に台湾マラソン前日までに行われるEXPOにて北海道のマラソン大会をPR。
同様に 2月の上海マラソンのEXPOでもブース出展してPRと、メルマガ・EXPOを連動させてPRを進めている。
- ・JSSのFBフォロワーが着実に増えている。
- ・シンガポール、香港での雑誌掲載(別添1)、台湾でのWEBマガジン掲載 等

3. 相互交流

- ・日本から台北マラソンやシンガポールマラソンに参加することにより 現地の方に日本のマラソンの質の高さをアピールできる。
例) エイドステーション、おもてなし、食事 等

4. わが社の強み

- ・英語や繁体字、簡体字で参加案内を作るだけでなく 最終案内もその言語で作ることにより参加者への安心感につなげている。
また、ちょっとした旅行等の問い合わせにも対応できている。

5. その他ポイントや課題

- ・日本在住の外国人からの発信を大切にすることが大事
- ・東アジアだけでなく世界中から日本へお客様を呼べるコンテンツに仕上げる
- ・GDPRに対応していくためのシステム改修中であるとともに 個別に対処している。